

中央アルプス：千畳敷・木曽駒ヶ岳山スキー報告

【山城】中央アルプス：木曽駒ヶ岳

【日程と天候】2018年5月12日（土）晴れ

【メンバー】CL 菊池・池田

【行程】千葉ー駒ヶ根 ICー菅の台駐車場ーバス 7:10ーしらび平ーロープウェイ 7:50ー千畳敷 8:18ー9:15 極楽平ー宝剣岳手前（三ノ沢岳分岐部）ー南斜面標高差 300m 滑走ー100m 登り返しー滑走ー平坦地休憩ー稜線へ登り返しー極楽平ー標高差 300m 滑走（ロープウェイ駅下標高差 100m まで）ー13:35 ロープウェイ駅 14:00ー下山



- ・ 昨年の同時期は白馬鎭温泉・大出原、今年は白馬岳を若手に案内する予定であった。白馬はハードロングルートのため前夜発が必須、今回は前夜発が困難なため、楽な千畳敷木曽駒山スキーに変更した。このエリアの山スキーは今回で3回目である。前2回はいずれも5月最終週で、2007年は木曽駒ヶ岳山頂から東斜面を滑って駒飼ノ池経由で伊那前岳への稜線に登り上げ、南面の急斜面を滑走、その後極楽平から南の沢ルートを滑走した。2012年は極楽平から三ノ沢山頂へピストンした。

- ・今シーズンの残雪量は少なく 2 週前に訪れてみた。千畳敷の積雪は 160 cm、始発のロープウェイに乗り、千畳敷に降り立つとこんな感じです。アイゼン装着でスタートします。八丁坂の急斜面から乗越浄土を経て木曽駒ヶ岳山頂へ、2012 年と同じルートを通る予定であったが、伊那前岳南面の残雪が少なく、まだ早い時間で雪面が固すぎ、八丁坂の急斜面の登りが懸念されたため、先ず極楽平に登り上げることとした。これは伊那前岳方面です。南面の急斜面は繋がって千畳敷まで辛うじて繋がっています。先行の二人組に続いて極楽平への登りが始まります。



急斜面は 2 日前の降雪により表層雪崩の跡が見られ上部は急斜面のため、登山道ルートの方へ迂回するように傾斜の緩いルートを通りますが、最短距離の急斜面を突っ込むグループもあります。クローを付けていても稜線直下で苦労している様子が見受けられました。

稜線の達すると登山道が露出、かつこよい三ノ沢岳が眼前に現れ、初挑戦の相棒は痛く感激していました。



宝剣岳方向へ進み、二ノ沢のエントリーポイントに到着、覗き込むと 40 度を超す急斜面が落ち込んでいます。小生は一度も滑走はしていませんが、千畳敷ホテルの正面

に見える岩峰の間の急斜面のため人気があるようです。

神戸・大阪などから訪れた5人組がエントリーするとのこと。雪面は緩んでいるようですが、かなり緊張するでしょう。少し談笑し記念撮影してあげました。



更に進んで、宝剣岳岩峰の核心部手前で休憩し、そこから三ノ沢岳の南の沢ルートを通ることとしました。宝剣岳の岩峰越しに八丁坂方面を見ると登山者が豆粒のように見えます。このアングルからの眺めは急斜面のすごい迫力ですね。



・さあ、いよいよ滑走です。三ノ沢岳・空始めはガリガリの緩斜面、次第に斜度を増します。6年前に山頂から滑走した思い出の三ノ沢岳を正面に見ながら固い斜面、テレターンはしばらく封印、アルペンターンで慎重に下りました。30度を超える部分も少しあり、まだ緩み切っていない急斜面を慎重に滑走しました。こんなグレイトビューを眼前にしての滑走は山岳

木岳方向をバックに記念撮影です。



スキーの醍醐味です。



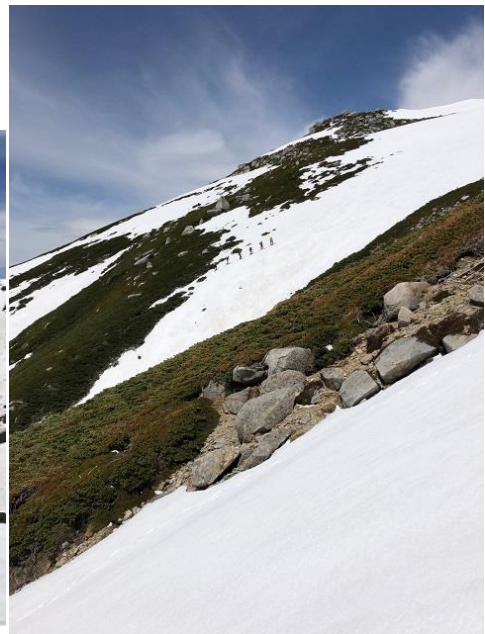
平坦地まで標高差 300m、後半は適度に緩んだ快適ザラメ斜面、テレターンを堪能しました。滑走終了の平坦地で休憩、我々のほか 2〜3 パーティがこの快適斜面を楽しんだ。下部は極上ザラメで快適なため標高差 100 ほど登り返して 2 本滑走した

- 登りはクトーを付けての快適シール登高ができた。曇りかけた空が再び青空主体とな





りました。スケールの大きい青空の下の山岳風景を眺めながらのシール登高も山スキーの醍醐味ですね。稜線方向への登り上げは滑走ラインでなく、斜度が少しきつくない直登ラインを選んで、最後はツボ足でガレ場を登り比



較的に楽に稜線に達したが、ガイドグループは滑走ライン頑張っていたが、やや苦勞しているようであった。

稜線直下は雪が消え、さながら秋の風景です。おりしも上空を飛行機が通過中です。この時期ならではの奇妙な景色です。



・さあ、極楽平からの大滑走が始まります。



稜線直下は 35 度を超える急斜面、新雪で雪面がやや荒れており、油断禁物である。この斜面の滑走は 3 回目である。70 歳一つ手前、転倒して怪我でもするわけにはいかない。千畳敷駅の建物に向かって、しばらくアルペンターンで高度を下げた。後半は快適ザラメにテレターンを決めた。



相棒も豪快なアルペンターンを楽しんでいた。時間はたっぷりある。ロープウェイの駅より下方も素晴らし斜面が続く。この斜面を滑走しない手はない。ボダーも表層雪崩跡の脇にシュプールを刻んでいた。稜線からここまで標高差 300m、滑走のフィナーレを迎えて満足の記念撮影です。本

日は累計標高差 700mの登降でした。



ロープウェイが上を通過します。こんな写真が撮影できるのはここまで滑り降りたからです。余韻に浸っての駅までのシール登高を楽しみました。雪が緩んでいてもやや急な斜面ですのでクトー装着は省エネになりますね。残雪期の山岳山スキーはアイゼン・クトーを駆使して楽しむのが良いようです。コーヒーを頂き、14 時の下りロープウェイに乗車できました。菅の台の駐車場近くの日帰り湯で汗を流して帰葉しました。露天風呂から新緑の向こうに千畳敷が眺められました。最後に最高のプレゼントを頂いた気分でした。

